

1. この会社が目指す姿が理解できるか

三菱自動車は目指す姿を「三菱自動車らしさ」の再定義により明確化している。「三菱自動車らしさ」とは、環境を軸とする安全・安心・快適のことであると述べた上で、「SUV技術」、「オフロードの高い走破性」などへ具体的に言及する内容となっている。環境への取り組み方針についても、2020年に発表した「環境計画パッケージ」のうち、「環境ターゲット2030」を主な目標として、二酸化炭素排出量を具体的な数値を挙げて定め、脱炭素社会に向けた企業の理念が見て取れる。

2. この会社の競争優位性が理解できるか

現在、自動車業界においては、車種の開発コストに高額な費用がかかるため、開発する車種を絞り込まざるを得ない状況になっている。厳しい事業環境のなかで収益力を伴った健全で競争力のあるセグメントに集中的に投下する方針で、規模は小さくとも、収益力は高い存在を目指すことを意味する”Small but Beautiful”をコンセプトとして掲げている。今に満足することなく、いつまでも価値を生み続ける会社らしさが読み取れる。

3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

三菱自動車は、SDGsの重要性を認識してから、2018年度に環境・社会・ガバナンスの各分野の様々な課題から取り組むべき重要課題として、マテリアリティを特定した。また、サステナビリティ委員会、サステナビリティ推進部を設置し、随時役員・従業員・ステークホルダーと連携をとりつつ、小さい規模で価値を生み出し続ける姿勢を維持している。

4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

三菱自動車は、環境の変化が大きい自動車業界の中で、「持続的成長」と「企業価値の向上」を実現していくためのカギは「人」と考えられており、一人一人がやりがいをもって働き、自身の能力を存分に発揮し、心身ともに健康でいきいきと働ける職場環境を整えることを重要な課題として述べている。個々のワークライフバランスを考えた職場環境も整備されているので、人的資本の価値向上はかなり期待できる。

5. 報告書にはどのような改善余地があるか

三菱自動車の報告書は、実績紹介や現状分析、将来の展望はかなり具体的に報告しているが、それにむけた活動指針などが明確化されていない。三菱自動車の再定義から、中長期的な企業価値の向上を実現すると掲げるのはいいが、短期的な目標や活動が見えてこないのが改善点だといえる。